



栄光の奥義



ジェシー・ペン-ルイス
Jessie Penn-Lewis

オリーブ園

「御子の中に全豊満が宿ることを御父は喜ばれました」（コロサイ1:19）

「この奥義の栄光の豊かさ（中略）それはあなたたちの内におられるキリストです」（コロサイ1:27）

新約聖書で使われている奥義という言葉は、「長きにわたって隠されてきた聖なる秘密。隠されている間、人は決して伺い知ることのできないもの」という意味です。コロサイ人への手紙で使徒パウロが書き記しているこの奥義とは何でしょう？彼にはこの奥義を描写する言葉がないように見えます。しかし、この奥義は人の理解を超えた「栄光の豊かさ」で満ちているのです。

この奥義は彼が手紙を書く前の「諸々の時代」にわたって隠されてきたが、時が満ちるに及んで、神はそれを彼の聖徒たち——キリストの血により贖われ、神へと分かたれた者たち——に知らせることをよしとされたのである、と彼は私たちに告げます。

こんなにも長く隠されてきたこの奥義を啓示することができるのはただ神ご自身だけでしたが、神の子どもたちが神から無代価で賜ったこれらの事柄を知ることができるよう聖霊が与えられました。さいわいな聖霊が遣わされて、この奥義を啓示しました。聖霊はこの奥義を知ることが真に願う人々にいつでもそれを啓示して下さいます（1コリント2:9,10）。

血により買い取られた神の子どもたちは、この栄光の奥義を知る必要があります。これは実は、神から教わっているすべての者たちにとって公然の奥義なのですが、真の信者たちの大多数に対して隠されています。彼らは来る日も来る日も「罪を犯しては悔い改める」悲しい浮き沈みの生活を送っています。しかし、彼らがこの「奥義」を知る時、彼らは常に勝利をおさめるようになり、揺るぎない平和、深い満足と安息の中に導かれるのです！

しかし、この奥義とは何でしょう？それは二つの短い文章に要約することができます——御子の中に全豊満！「あなたたちの内におられるキリスト（中略）栄光！」です（コロサイ1:19,27）。

これが意味するのはまさに、御父は私たちの必要に対するすべての備えを愛する御子の中に置かれたということです。光、愛、力、忍耐、喜び、平和はみな御子の中にあります——今日、「命と敬虔のために」（2ペテロ1:3）私たちが必要とするものはすべて御子の中にあります（コロサイ2:3,9,10）。

御子の中に神の豊かさがあります。私たちの内には——何もありません！私たちの意志以外、私たちは神にささげるものを何も持っていません。私たちが御子を私たちの救い主として喜んで受け入れること、次に、御子を王として喜んで受け入れて、私たちの心の王座に着いていただくこと。御父が願っておられること、私たちに求めておられることは、ただこれだけなのです。

「私を選び分け、恵みを通して私を召して下さった神は、私の内に御子を啓示する ことをよしとされました」（ガラテヤ1:15, 16）。

使徒パウロはこの奥義をガマリエルのもとでは学びませんでした。神ご自身がこの奥義を彼に啓示されるまで、それは彼に対して完全に封印されていました。その後、彼の目は開かれ、主がいかに彼を誕生の時から見守ってこられたのか、そして、いかに彼を奉仕のために選ばれたのかを見るようになりました。

私たちがこの栄光の奥義を知ることができるのも、この同じ方法しかありません。聖霊は生けるキリストを私たちの内に住んでいる方として啓示しなければならないのです。それは最初、聖霊が彼を私たちの救い主として啓示されたのと同じようにです。

さらに、私たちが自分の知性でこれを理解しようとしても、また、どういう仕組みでそうなるのか解き明かそうとしても、私たちは決してこの奥義を知ることはできません！主イエスご自身が聖霊について言われました、「聖霊は私から受けて、それをあなたたちに示します」。しかし、永遠の御霊が啓示を与えることができるのは、私たちの知性が静まって、私たちが「理解しようと努めること」をやめる時、私たちが内省だけでなく彼を知ろうと切に求めることさえも放棄する時なのです。多くの人は復活の主を見つめる代わりに、経験を求めて自分の内側を見てしまいがちなのです。

私たちが自分の苦闘や努力をやめ、「私たちは喜んであなたに時間をささげます。私たちはあなたご自身の方法で御子を私たちに啓示していただきたいのです」と主に告げる時、突然、キリストが私たちの内に啓示されます——これは生ける輝かしい実際です。キリストが内に啓示されるのは太陽よりも明るい光によるのかもしれませんが、あるいは、自分でも気づかないうちに、無意識のうちに啓示されるのかもしれません。

私たちはその方法と時を告げることはできません。しかし、主イエスが内側で治めておられることを、私たちは聖霊の証しにより知ります。彼は弟子たちに言われました、「その日、私が私の父の中におり（中略）私があなたたちの中にいることを、あなたたちは知る でしょう」（ヨハネ14:20）。

明らかにされた奥義

「神は私の内に御子を啓示することをよしとされました。それは私が御子を宣べ伝えるためであり（中略）彼らは私の内におられる神に栄光を帰しました。」（ガラテヤ1:15, 16）。

ユダヤの諸教会が使徒パウロに起きた出来事を聞き、彼がどのようにかつて滅ぼそうとしていた信仰を宣べ伝えたかを聞いた時、「彼らは私の内におられる神に栄光を帰しました」と彼は言います。キリストの内住の結果は常にこうです！キリストが私たちの内に啓示される時、他の人々は神に栄光を帰します。神がご自分の宮とされた土の器に栄光を帰すではありません。人々は「何と素晴らしいクリスチャンだろう」とは言わず、「何と素晴らしい神だろう」と言うのです。

さらに、キリストが私たちの内に啓示される時、私たちは言葉と生活で彼を宣べ伝えずにはいられません。かつては自分の信じている事柄を知っているだけでしたが、今では、自分の信じているお方を知っています。キリストが私たちの内に啓示され、私たちがこの栄光の奥義を学ぶ時、きっと私たちは「この奥義がばれてしまう！」と思うでしょう。「この奥義を告白してもよろしいでしょうか？」と尋ねる必要はあまりありません。なぜなら、他の人々は彼が私たちを通して働いているのを見て、「どうすれば私たちもこの奥義を学べるのでしょうか？」と私たちのもとに来て尋ねるようになるからです。

キリストが使徒パウロの内に啓示され、他の人々に明らかになった後、この素晴らしい奥義の強める力について書かれています。使徒はこのように書き記しています、「ペテロの内に効果的に働かれたこの同じ方は、私の内でも力強かったのです」（ガラテヤ2:8、欽定訳）。

主はペンテコステの日にペテロの内に効果的に働かれたように、パウロの内にも効果的に働かれました。ペンテコステの日、ペテロは裁きの間にいた時の臆病な彼から、十字架につけられて復活した主を証する恐れを知らない証し人へと変えられました。使徒パウロの内に住んでおられたこの復活のキリストは、彼を通して力強く働き、「力あるしるしや不思議」を彼によって行われました。キリストはパウロの内に働いて、「神の御旨のために願わせ、働かせた」のです。

「ペテロの内に効果的に働かれた方は、私の内でも力強かったのです」と使徒は言いました。パウロはペンテコステの日に聖霊に満たされた人々の一人ではありませんでしたが、神はペテロ同様自分も力づけることができることをパウロは証明しました。ああ、この同じ主がすべての人の主であって、彼を呼び求めるすべての人に対して豊かであることを、聖霊が神の子供一人一人に示して下さいますように。血によって買い取られた神の子供はみな、今日、「パウロの内に効果的に働かれた方は、私の内でも力強いのです」と同じように言うことができるのです。

この奥義とその条件

「私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではなく、キリストが私の内に生きておられるのです。私が今生きているこの命を（中略）私は信仰の中で、神の御子の中にある信仰の中で生きるのです」（ガラテヤ2:20）。

この節は、この奥義を知る秘訣を示しています！「キリストが私の内に生きておられるのです」に先立つ「私はキリストと共に十字架につけられました」という言葉に注目しましょう。

私たちの目が開かれてキリストの豊かさを見る時、彼は私たちに、彼の形に同形化されて、この邪悪な世にあって彼が歩まれたように歩く秘訣を示して下さいます。この秘訣とは、彼のようになろうと私たちが努めることではなく、イエスご自身が来て、彼の宮である私たちの内に住み、私たちを通して彼ご自身の生活を生きることなのです。

神の子供たちである私たちが、キリストのように生きることに完全に失敗して、この努力をやめる時、それは大きな前進の一步です！キリストのようになろうと私たちが努めることを、神は耐え忍ばなければなりませんでした。それは、神の聖なる御子の生活を模倣することは人間には不可能であることを私たちが見いだすためでした。

私たちが自分自身を救おうとしたり、自分を神にふさわしい者にしようとした時、懸命の努力にもかかわらず、私たちは自分が「一向によくならず、かえって悪くなる一方」であることを見だしました。それと同じように、私たちの救いの問題が解決した後、私たちはまたもや同じことをしようとして、「今や私たちの罪は赦されたのだから、主の助けにより私たちは主を喜ばせることができ、主のために働くことができる」と考えてしまうのです。そこで再び私たちは試すことを許されるのですが、失敗して、ただ自分の無力さを悟ることになります。

「自分は神にささげる『賜物』を持っている」とぼんやりと考えていて、「神は古い命を聖化して、自分を改善して下さる」と期待している人が、私たちの間にも何と多いことか！ある人がかつて言ったように、私たちが終わらされる道は長い道のりであり、「私の内には（中略）何も良いものはありません」（ローマ7:18）と心から真に喜んで言えるようになるにはとても長い時間が必要であるように思われます。サウル王のように私たちは自分の判断力を用いて、みすばらしくて価値がないと思うものは喜んで滅ぼすのですが、奉仕のために神にささげるのに「良い」と思うものは惜しんでしまうのです。

聖霊はしばしば痛ましい経験を通して、私たちは何者でもないこと、私たちの善ですら墮落していることを私たちに教えなければなりません。なぜなら、私たちの古い命から出るものはみな、罪の呪いの下にあるからです。

神のご計画はこの古い命を改善することではなく、私たちがそれを死——十字架の死——に渡すことです。なぜなら、神の目から見て、古い命はキリストがカルバリで死なれた時、実際にキリストと共に十字架につけられたからです。「私」があってはなりません。キリストを喜ばせ、キリストのために働こうとする、外見上よく見える「私」でさえもあってはなりません。「私」のあらゆる面に対して神は死の判決を下されました。私たちは神のこの判決を認めて受け入れなければなりません。そして、「私」のあらゆる面をすべてカルバリの十字架に渡さなければなりません。

私たちの目が開かれて、「キリストと共に十字架につけられ、彼の十字架に彼と共に釘づけられた」という私たちの立場を見る時、そして、真の自己否定というこの十字架につけられた生活を生きる時、神の御霊は内側にキリストを啓示することによって証しして下さいます。もはや、ぼんやりしたかすかな主ではなく、ある人が言ったように「内なる救い主！」です。その後、彼は私たちの肉体という土の家を通してご自身を現し、御父に栄光を帰すことができます。それから、彼はささげられた体を通して働くことができます。弱々しく断続的に働くのではなく、効果的に力強く働くことができます。もはや私たちによって妨げられることなく、私たちを通して御旨のまま祝福のうちに動かれます。そして、私たちは彼にまったく従います。

「生きているのはもはや私ではなくキリストです」——これが秘訣であり、この秘訣により栄光と富からかすかに豊満が現されることにもなります。

しかし、私たちは憶えておく必要がありますが、信者の内に住んでおられるキリストは信者の個性をなくすようなことはなさいません。使徒は、「キリストは私 (me) の内に生きておられます」と書き記しています。

この大文字の「私」 (I)、主を追い出して辱めるこの「私」 (I) は十字架につけられました。しかし、「私」 (me) はまだ生きています！この「私」 (me) は、心の内に住んでおられる優しく恵み深い王に直ちに絶対的に従わなければなりません。自己ではなくキリストが心の中で王座に着いておられます。キリストこそ私たちの存在の中心にあるこの新しい命の泉なのです。

他の人々のためのこの「奥義」

「私の小さな子供たちよ、キリストがあなたたちの内に形造られるまで、私は再び産みの苦しみをします」（ガラテヤ4:19）。

「ああ、キリストが彼らの内に啓示され、彼らの内に完全に形造られますように」が、回心者たちに対する使徒パウロの切なる願いであり、この目標に向かって彼は彼らのために産みの苦しみをしました。彼は聖霊が忍耐と優しさをもって彼らを古い地上の命から引き離しておられるのを見ている間、何と目を覚まして祈り、彼らを養い顧み、彼らを励まして彼らに警告したことでしょう。パウロは自分の内に力強く働くその「働き」にしたがって、彼らの間で労苦しみました（コロサイ1:29）。彼の前には常に一つの偉大な目的がありました。その目的とは、キリストが彼らの内に形造られること、そして、キリストが現れる日、彼ら全員をキリストにあって完全に成長した者としてささげることでした（コロサイ1:28、29を見よ）。

これが栄光の奥義であり、今や、その啓示を受ける条件に同意するすべての人に対して開かれています。贖われた人は土の器であり、その体は脆土なのですが、その古い「私」はキリストの十字架に釘づけられ、生けるキリストが内側に住んでおられます。見たところ、土の器には何か自分から出ていると考える十分な資格はないようです。それは、すべての人がその土の器の中におられる神に栄光を帰すためです。土の器は神にまったく明け渡されているので、神はそれを通して妨げられることなく力強く働くことができます。その間、その土の器は毎瞬ただひたすら、内側で治めておられる神の御子に対する信仰によって生きています。

このようにして、神のものである人は毎時、清める血の力の下で生活し、ますます深くキリストの死に同形化されます。「絶えずイエスの死をこの身に帯びていますが、それはイエスの命が現されるためです。私たちはイエスのために絶えず死に渡されていますが、それはイエスの命もまた私たちの死ぬべき体に現されるためなのです」（2コリント4:10、11）。

この「奥義」の永遠の力

この奥義への鍵はただ信仰だけです——神の働きを信じる信仰です。パウロはエペソ人に書き送りました、「こういうわけで、私は膝をかがめて御父に祈ります（中略）あなたたちが彼の霊を通して内なる人の中で力をもって強められますように。キリストが信仰を通してあなたたちの心の中に住んで下さいますように。（そして）あなたたちが満たされて神の全豊満に至りますように」（エペソ3:14-19）。

「神は天に宝を持っておられ、
誰もその富を勘定し、告げることはできません。
神には深遠な永遠の御旨があり、
御子キリストを大いに愛しておられます。
神はこの地上に宝を持っておられ、
ただ神だけがその値打ちをご存じです。
深遠な測り知れない御旨を、
キリストは地上の聖徒たちの内に啓示して下さいました。」